



現代日本のひずみを、子どもの視点で描く 『こどもしょくどう』



©2018「こどもしょくどう」製作委員会

下町風情を感じさせる食堂を営む両親（吉岡秀隆、常盤貴子）のもと、小学5年生のユウト（藤本哉汰）は妹（田中千空）と4人で穏やかに暮らしている。しかし、まわりを見回すと、ユウトの幼なじみのタカシ（浅川蓮）は、母子家庭に育ち、母親の育児放棄ゆえに生活がままならない。またユウトが通学路で出会うミチルとヒカル（鈴木梨央、古川 凜）は、父親と河原で車中生活中、学校に通っている気配はなく、常にお腹を空かせていて、母親に会いたいという気持ちを抱えつつ、姉妹で助け合いながら日々を過ごしている。

彼らを心配したユウトの両親は、自分たちの子どもの夕食に彼ら呼び、食堂の定食を振る舞ったり、お弁当をもたせたりしていた。そんなある日、ミチルとヒカルの父親が失踪。姉妹2人きりになってしまったことを知ったユウトは、ある行動を起こす……。

「虹色の雲」を見ると幸せになれる、と信じるヒカルたちには、どのような未来が訪れるのか？

* * *

厚生労働省調べによる「子供の貧困率」は13.9%（2015）で、数人に1人が貧困に悩まされている計算となる。子どもの貧困や孤食解決の一手段として、現在全国に2,000カ所以上の「子ども食堂」があるといわれているが、それを題材とした映画が、この春公開される。

監督の日向寺太郎氏は、「子ども食堂が必要となる社会の根本的な課題に迫るため、この作品は子どもの視点から描きました」、「人と人が出会い、他者を思い合うことで、人や社会は変わり得ます。映画をご覧になった方が、それぞれの方にとっての“一歩”を踏み出すきっかけにしていいただければ」と語る。

■映画『こどもしょくどう』



©2018「こどもしょくどう」製作委員会

監督：日向寺太郎

原作：足立紳 脚本：足立紳、山口智之
出演：藤本哉汰、鈴木梨央、浅川蓮、古川凜、田中千空、
降谷建志、石田ひかり、常盤貴子、吉岡秀隆、他
製作：パル企画/コピーライツファクトリー/バップ
配給：パル企画
公式サイト：<https://kodomoshokudo.pal-ep.com/>
©2018「こどもしょくどう」製作委員会

2019年3月23日（土）岩波ホールにてロードショー（ほか、全国順次ロードショー）